

みやの 宮野

りゅううん 隆運

宗教家

1870(明治3)年～1923(大正12)年

1. 経歴・狭山市とのかかわり

明治3年(1870)11月25日、入間郡北入曾村(狭山市北入曾)の宮野家に父清右衛門と母ますの三男として生まれ、幼名を源次郎と言う。同15年(1882)4月20日12歳で六郷村高畑(川崎市川崎区)の宝幢院を経て、同13年2月7日、14歳で平間寺に入山し、第40世の深瀬隆健(1880～1897)から剃髪を受け、新義真言宗の修業を本格的に始めた。

和暦(西暦)	年齢	主な出来事
明治19年(1886)11月28日	16歳	大本山智積院に入壇する。
〃24年(1891)11月2日	21歳	小石川の常泉院で進具受得する。
〃26年(1893)12月5日	23歳	智積院の講堂で三却地前の問者を勤める。
〃27年(1894)4月12日	24歳	東京音羽の護国寺で幸心流を伝授される。
〃28年(1895)4月12日	25歳	護国寺講堂で大日経疎三一章の問者を勤める。
〃32年(1899)10月27日	30歳	慶雲海量より菩薩院を結衆する。
〃35年(1902)2月16日	32歳	本山で精義者として伝法大会を修業する。
〃38年(1905)3月17日	35歳	平間寺で御流神道を灌頂する。
大正元年(1912)10月1日	42歳	西藏院道場で伝法院を伝授される。
〃3年(1914)10月27日	44歳	智山派管長より集議席を任命される。

明治32年(1899)、先代40世・隆健の隠居により30歳で平間寺の第41世になり、大正12年(1923)まで23年間、山首を勤める。戸籍名を宮野姓から佐伯姓にし、大本山の智積院から大僧正位を贈られた。

2. 主な業績

隆運は、アメリカ合衆国やヨーロッパにまで行脚し、宗教とは何であるかを研究し、帰朝する。そこで得た一つが、免囚保護事業である。神奈川県各宗派を糾合して、神奈川県仏教慈徳会を創立し、曹洞宗大本山諸嶽山総持寺(本尊は釈迦如来像 横浜市鶴見区鶴見2丁目)の山主と協力し、免囚保護事業を起こし、時の司法大臣から賞せられる。

3. 特筆

免囚保護事業を初めて導入し、その先駆者としての栄誉を得る。免囚事業の偉業を創設し、成し遂げたことは宗祖弘法大師に酷似し、宗教界の重鎮と言われる。また、山門の竣工を行った。大正12年(1923)8月7日、54歳で亡くなる。

参考・引用文献 『平間寺史』平間寺出版部編 1934年
文責・権田恒夫



隆運奉納の手洗鉢(入間野神社)